地方独立行政法人　大阪市博物館機構　年報

【2019 年度】

目　次

ごあいさつ ・・ 1

I.　組織
Ⅰ－（１）役員 ・・・ 2
Ⅰ－（２）沿革 ・・・ 2
Ⅰ－（３）組織図 ・・・ 2
Ⅰ－（４）職員 ・・・ 2

II.　大阪市博物館機構のあらまし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

III.　大阪市博物館機構の事業
Ⅲ－（１）各館の主な事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅲ－（２）事務局の主な事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

IV.　各施設の活動
大阪市立美術館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
大阪市立自然史博物館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
大阪市立東洋陶磁美術館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
大阪市立科学館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
大阪歴史博物館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
大阪中之島美術館準備室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

V.　資料
決算報告書 ・・・ 16

VI.　大阪市博物館機構からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

ごあいさつ

2019 年４月１日、大阪市の５つの博物館・美術館（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館及び大阪歴史博物館）は、地方独立行政法人大阪市博物館機構の下で新たなスタートを切り、全国で初めて、地方独立行政法人が博物館・美術館の運営を担うこととなりました。また、美術・自然・科学等、テーマの異なる５つの博物館・美術館、加えて大阪市が 2021 年度のオープンに向けて整備を進める大阪中之島美術館の開館準備も含めて、一体的に運営することも、全国で初めての試みです。

1936 年の大阪市立美術館開館以来、大阪市の博物館、美術館は長年に亘り、市民の皆さまはもとより、多くの方々のご理解、ご支援をいただきながら、歴史・美術から自然・科学に至る多様な分野において、それぞれの専門性を生かし、展示や調査研究など、博物館活動の充実、発展に努めてまいりました。

2019 年度は、国際博物館会議 (ICOM:International Council of Museums)の活動に積極的に参加し、大阪市博物館機構としてメイン会場にブースを出展するとともに、大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館の３館では、大会公式プログラムの「オフサイトミーティング」を開催しました。これまでの活動を基盤に各館の特色を生かしながら、機構として一体的に運営を行うことで連携による相乗効果を発揮し、大阪市ミュージアムビジョンに掲げられた「都市のコアとしてのミュージアム」の実現を目指して歩み始めることができたと感じています。

おかげさまで、皆さまからの大きなご期待をいただき、機構として発足以降の１年間で、約 270万人に上るお客様をお迎えし、当機構の５館合計の来場者数として、過去最高を記録することができました。一方で、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、２月末から休館を余儀なくされております。感染症の一日も早い終息を願いながら、当機構としても必要な対策を実施することで、安心・安全な環境でお客様をお迎えし、皆さまと共に「大阪を元気に」することができるよう、取り組んでまいります。

なお、2020 年３月をもって、2014 年４月より６年間大阪歴史博物館の館長として大阪で育まれた歴史・文化の調査・研究やその成果の社会への還元に尽力した栄原 永遠男は退任し、後任の館長として大澤 研一が就任致しました。在任中に賜りましたご懇情に厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、大阪市博物館機構並びに各館への皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

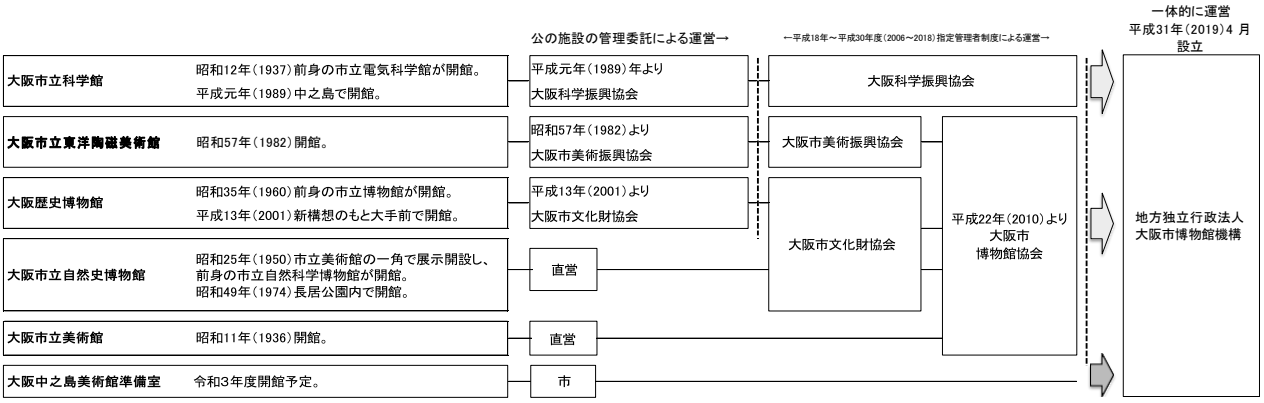
地方独立行政法人　大阪市博物館機構
理事長　真鍋精志

I.　組織

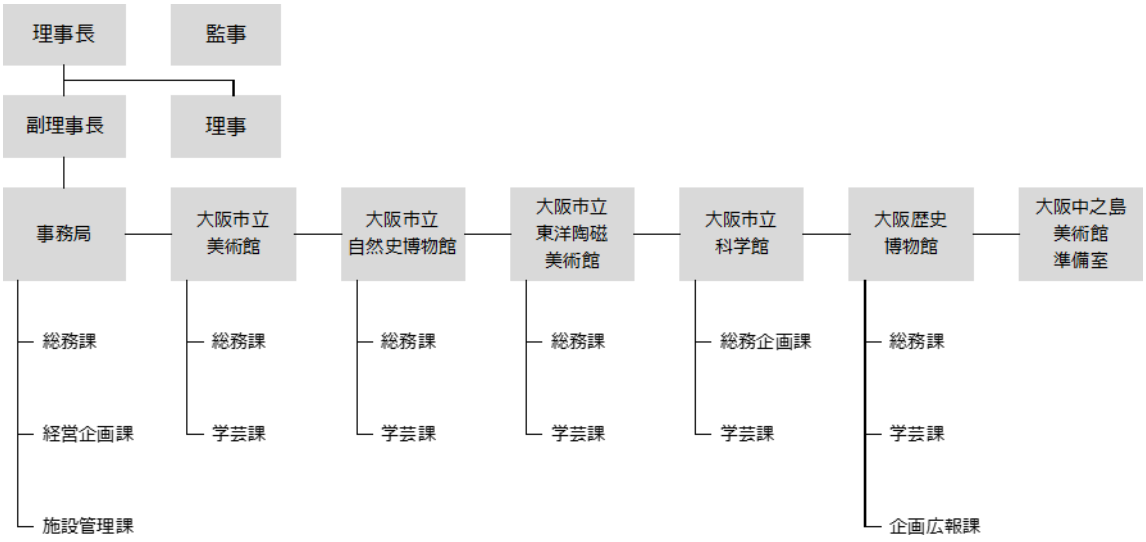
(1)　役員（平成 31 年４月１日現在）

理　事　長	真鍋　精志	理　　事	玉岡　かおる
副理事長	安積　孝夫	理　　事	布谷　知夫
理　　事	梶谷　亮治	監　　事	西尾　方宏
理　　事	佐藤　友美子		

(2) 沿革



(3) 組織図



(4) 職員（平成 31 年４月１日現在）

	事務局	大阪市立 美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立 科学館	大阪歴史 博物館	大阪中之島 美術館準備室	計
事務職	16	10	8	5	10	12	2	63
学芸職	3	10	13	7	12	19	11	75
計	19	20	21	12	22	31	13	138

II.　大阪市博物館機構のあらまし

【特徴】

地方自治体として初めて独立行政法人として博物館を運営し、美術、自然、陶磁器、科学、歴史、現代美術といった異なる分野の施設を一体管理しています。

【目的】

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、博物館及び美術館を設置し、歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する資料等を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、当該資料等に関する調査研究及び普及活動を通じて、市民の文化と教養の向上を図るとともに、学術の発展に寄与することを目的としています。
（定款第１条から）

【業務の範囲】

当機構は、上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行っています。

1. 博物館等を設置すること
2. 歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料、その他の資料（以下「博物館等資料」という。）を収集し、保管して公衆の観覧に供すること
3. 博物館等資料に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること
4. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究を行うこと
5. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びに前号の調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと
6. 市民の生涯学習の機会を提供すること
7. 博物館等資料を貸し出し、及び交換すること
8. 他の博物館等、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
9. 第１号の博物館等の運営に関する調査研究及び評価等を行うこと
10. 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと　（定款第 16 条から）

【各館の使命】

大 阪 市 立 美 術 館

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立自然史博物館

大阪の自然の情報拠点として、市民の自然への興味関心を強め、あわせて大阪に蓄積された自然史科学関連の資料保全と活用に務めるため、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立東洋陶磁美術館

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大 阪 市 立 科 学 館

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行っています。

大阪歴史博物館

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪中之島美術館準備室

大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進めています。

III. 大阪市博物館機構の事業

（１）各館の主な事業

（ア）博物館資料の収集・保管

購入・寄贈等により資料を収集し、寄託による受け入れを行い、それらを適切に保管して将来へ継承します（博物館資料には、歴史・美術・自然・科学・科学技術に関する実物・標本・現象に関する資料などが含まれます）。

館蔵品数（令和２年３月 31 日時点）　（件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
8,495	1,884,254	5,567	2,256	144,718	5,798	2,051,088

※大阪歴史博物館・大阪中之島美術館準備室については点数

国宝・重要文化財数（令和２年３月 31 日時点）　（件）

	大阪市立美術館		大阪市立東洋陶磁美術館		大阪歴史博物館		大阪中之島美術館	
	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品
国宝		5	2			2		
重文	14	114	13	1	671	55	1	

※大阪歴史博物館・大阪中之島美術館準備室については点数

新収蔵品数（購入・寄託・寄贈含む）　（件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
5	110,484	15	66	63	31	110,664

※大阪中之島美術館準備室については点数、大阪市立美術館・大阪歴史博物館は寄託を含まない

修理点数　（点）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
3	0	7	20	1	18	49

（イ）博物館資料等に関する調査研究

博物館資料についての専門的な調査研究や、利用者調査をはじめとする博物館運営に関する調査・分析などを行います。

文部科学省科学研究補助金を受けて行った研究

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
3	19	5	0	7	34

（ウ）博物館資料の展示

常設展では、展示替を行いながら館蔵品・寄託品などを公開します。また、各館で年数回の特別展の開催や大阪市立科学館ではプラネタリウムの投影などを行います。

各館入場者数

	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
常設展	98,471	290,812	105,375	405,825	239,558	1,140,041
特別展・プラネタリウム	479,847	156,415	97,572	351,932	57,543	1,143,309

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日より全館において臨時休館により公開中止

（エ）教育普及事業

講演会・展示解説・ワークショップ・観察会などの事業を通して、活動成果の公開と普及をはかります。また、学校や教員と連携し、生徒・学生の利用を促します。ボランティア活動や NPO 法人との連携により、館活動への参画機会を提供します。各館の特徴に応じた様々な事業を行っています。

（オ）事業の効果を高める業務

展覧会や教育普及事業において地域や関係団体、マスメディアなどと連携を取り、よりよい事業を構築します。戦略的な広報により、効果的な情報発信を行います。障がい者や外国人をはじめ、だれもが利用しやすい博物館運営を行います。また、館の機能強化やサービス向上のため施設改修に取り組みます。

（カ）大阪中之島美術館の開館準備

近現代美術・デザインを中心とする大阪中之島美術館（令和 3 年度開館予定）の開館準備業務を行います。

（２）事務局の主な事業

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努めています。

総 務 課

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限発揮できるよう、必要な体制整備や職員の育成や、内部統制などその他運営に関する事項について行っています。

・職員の職能別・階層別の研修の実施

・人事評価制度の検討

経営企画課

大阪市博物館機構に所属する各館の持つ魅力をみなさまにお届けするために、広報誌の作成や、講演会を実施しています。また、法人の適正な目標設定及び自己評価を行うために中期計画及び年度計画の策定及び評価に関する規程等を整備しています。

また、大阪市立大学と教育、研究、社会貢献の分野で知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的連携事業を相互に協力して実施し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び学術文化の向上発展に寄与する事業など教育普及事業にも取組んでいます。

■広報

・ポータルサイトの開設・運営

・広報誌の作成：ミュージアム情報冊子「Osaka Museums」の印刷・配布（３回発行）

・情報発信：ICOM 大会を活かしたミュージアム情報の国際発信

ICOM 大会
大阪市博物館機構
出展ブース

ミュージアム情報冊子
「Osaka Museums」

■教育普及

①講座

・学芸員などによる長期連続講座「TALK＆THINK」の開催（13 回実施）

・出前講座の実施：「見どころたくさん大阪市の博物館・美術館」（３回実施）

・ミュージアム連続講座：「世界遺産と文化財」（３週連続）

・博学連携シンポジウム：「河内鋳物師の実像に迫る」

②大阪市立大学への出講

・博物館関連講義へ学芸員を派遣（通年実施：３講座）

③学校連携

・市内公立小・中学校へ「授業に役立つミュージアム活用ガイド」等の資料を配架し、学校向けの利用促進に努めました。

「TALK＆THINK」の開催チラシ

「ミュージアム連続講座」
の開催案内チラシ

施設管理課

美術館・博物館の快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行っています。また、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施しています。

Ⅳ 各館等の活動

大阪市立美術館

大阪市立美術館は、市民が優れた美術文化に接する機会を提供し、生活に潤いをもたらすとともに、美術家の活動を助成し、広く大阪の文化振興に資することを目的として、昭和 11 年（1936）5 月に開館しました。美術館は天王寺公園の中に位置していますが、その敷地は住友家の本邸があった所で、美術館の建設を目的に庭園（慶沢園）とともに大阪市に寄贈されたものです。

美術館は設立当初の本館と、平成 4 年（1992）に美術館の正面地下に新設した地下展覧会室からなります。地上 3 階、地下 2 階からなり、本館陳列室では、特別展やコレクション展を開催しています。コレクション展では購入や寄贈によって集まった日本・中国の絵画・彫刻・工芸など 8,500 件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しています。これらの作品には国宝や重要文化財に指定された作品も多く含まれています。また地下展覧会室では、常時様々な美術団体が主催する展覧会を開催しています。

本館地下には美術館に付設されている美術研究所があり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っています。

■展示・公開

●コレクション展

コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など 8,500 件を超える館蔵品と、社寺などから寄託された作品を展示しています。

期間	展示名称	入場者数
4 月 6 日～5 月12日	「花香鳥語―中国明清の絵画－」 「おおさかの仏教美術２」	24,717人
6月1日～6月30日 7月16日～28日	「白いやきもの」 「絵巻を写す」 「幽美を求めて －墨から墨まで－」	15,420人
8月10日～9月29日	「風俗画と美人画」 「よそおう－化粧道具－」 「よそおいをうつす －和鏡－」 「天上超脱の書 －江戸の四僧－」 「油絵祭り2019 －静かに成長する洋画コレクション－」	25,960人
10月12日～11月24日	「屏風祭り2019」 「画中人 中国の人物画」	22,250人
10月26日～12月 8 日	「誰が袖 工芸・絵画」 「うるわし漆椀 朱・黒」 「荘厳供奉 －仏教工芸の世界－」 「仏教絵画 中国・日本」	
12月18日～2月9日	「生誕150年記念 船場の絵描き 庭山耕園 －近代大阪の四条派－」 「明器 －古代中国 墳墓のやきもの－」 「没後50年 鍋井克之」	8,783人
2月22日～３月22日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、２月29日から臨時休館により公開中止	「中原の古法 －北朝石刻書法－」 「春爛漫 花咲くやきもの」 「画中游 中国の山水画」	1,341人

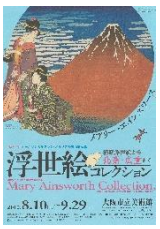
●特別展

国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催しています。

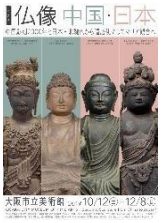
期間	展示名称	入場者数
2月16日～5月12日	フェルメール展	541,651人 （開催期間合計数）
6月1日～6月30日	改組 新 第５回日展	39,994人
7月16日～7月28日	第65回全関西美術展	6,697人
8月10日～9月29日	メアリー・エインズワース浮世絵コレクション－初期浮世絵から北斎・広重まで－	59,383人
10月12日～12月8日	仏像 中国・日本	29,394人
2月22日～３月22日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、２月29日から臨時休館により公開中止	改組 新 第６回日展	24,792人

フェルメール展

新 改組 第５日展



メアリー・エインズワース浮世絵コレクション



仏像 中国・日本

■ 収集・保管・修理

絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入・寄託・寄附によって、作品の収集に努めています。

年月を経て劣化した作品を将来にわたって保存し、継承していくために、展示室や収蔵庫の環境管理・データベース化・資料の状態を考慮しての修理などを行っています。

■ 教育普及

来館者に探求心を抱き、感受性や創造性を育んでいただくために、日本・中国を中心とする政界諸地域の文化財について理解を深めるための手助けを行っています。 学校との連携やボランティア活動への支援を行うともに、展覧会の講演会を行うことで、都市のコアとしてのミュージアムにふさわしい教育普及活動を実施しています。

●学習機会の提供

講演会、トークイベント、ギャラリートーク

●こども向けワークショップ

小中学生の美術鑑賞授業でのレクチャー

● 大学との連携

キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ生の受入、博物館学関連講座への出講

■ 調査研究

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について調査研究を行って、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や、文化活動の助成金も活用しています。令和元年度の研究テーマの一部を紹介します。

・江戸時代の土佐派の基礎的研究ー作画領域の確立と画風の継承から見た土佐派の活動ー

・礼拝像・祭具制作における素材選択の心性史：材質とその聖性の喧伝に関する調査・研究

・中国南北朝～唐時代における道教礼拝像の地域性研究：河東(山西省西南部)を中心に

沿革

大正 9 年（1920）	3月30日、市議会の決議により美術館設立が議決される
大正 10 年（1921）	12月、住友家が美術館建設を条件に茶臼山本邸寄付を大阪市に申し出る
昭和 5 年（1930）	鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断
昭和 9 年（1934）	美術館工事再開、外装工事が竣工
昭和 11 年（1936）	5月1日、大阪市立美術館開館。落成記念展は「改組第一回帝国美術展」
昭和 17 年（1942）	阿部コレクション中国絵画の寄贈を受ける陸軍による接収をうける
昭和 18 年（1943）	小西家旧蔵光琳資料の寄贈をうける
昭和 19 年（1944）	住友家より関西邦画展出品作の寄贈を受ける
昭和 20 年（1945）	第二次世界大戦終戦連合国軍による接収を受け、事務所を移転する
昭和 21 年（1946）	寄寓先の旧精華国民学校内に美術研究所を開く
昭和 22 年（1947）	美術館接収解除される
昭和 23 年（1948）	美術館での展示活動を再開する
昭和 26 年（1951）	博物館法の制定により教育委員会に移管される
昭和 52 年（1977）	山口コレクション中国仏教彫刻・工芸の譲渡を受ける（昭和53年度まで）
昭和 55 年（1980）	田万コレクションの寄贈を受ける
昭和 56 年（1981）	カザールコレクション漆工の譲渡を受ける（昭和59年度まで）
昭和 62 年（1987）	天王寺公園が有料化される南館の美術団体展展覧会場の一部がアベノベルタに移転し、それに伴い本館南館の一部が常設展示展会場となる
平成 4 年（1992）	美術館正面 地下に展覧会室を新設し、南館とアベノベルタの美術団体展 展覧会場を統合移転する。南館は常設展示会場となる
平成 7 年（1995）	小野コレクション 中国石仏の譲渡を受ける（平成14年度まで）
平成 27 年（2015）	登録有形文化財（建造物）に登録される

施設概要

規模・構造	地上３階、地下３階
延床面積	17,190㎡（本館12,306㎡、新館4,884㎡）
展示面積	6,485㎡
収蔵面積	760㎡（北・中・南の３室）
展示室構成	18室：本館１階、10室 本館２階、８室
地下展覧会室構成	４室：新館地下２階
収蔵庫構成	３室：本館地下２階 北収蔵庫 210㎡ 中収蔵庫 130㎡ 南収蔵庫 420㎡
活動用諸室	美術ホール 本館１階 特別室　　本館２階
その他諸室	事務室・学芸室・図書室・書庫ほか 本館地下1階

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館は人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、その変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知っていただく施設です。私たち一人一人が、自然界の構造や諸関係について、幅広い知識を持つことが大切な時代になってきました。自然の保全のためだけではなく、よりよい未来、そしてよりよい生活環境を実現するためにも、大切です。

自然史博物館では、こうしたテーマを「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」と題した 4 つの常設展示室、そして特別陳列や特別展を通して展示すると共に、年間 80～100 回程度開催される様々な観察会や講演会などの行事などを通じて様々な角度から、わかりやすく伝えていきたいと思っています。

■展示・公開

● 常設展示

常設展示では、人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示しています。また、テーマ展示・ミニ展示といった小規模な展示も随時行っております。

（令和元年度：企画展示・テーマ展示・ミニ展示）

・「新種　クマノザクラ」	期間：3 月 3 日～4 月 29 日	入場者数：31,838 人
・「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展 2019～」	期間：4 月 27 日～5 月 26 日	入場者数：36,340 人
・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」	期間：12 月 14 日～1 月 26 日	入場者数：10,410 人
・「子年展」	期間：1 月 5 日～2 月 2 日	入場者数：　9,311 人
・「コケを学ぶ」	期間：11 月 16 日～12 月 27 日	入場者数：28,587 人
・「岸川椿蔵書」〈開催中止〉	期間：3 月 7 日～4 月 5 日	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日から臨時休館により公開中止

●特別展

国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催しています。

（令和元年度：特別展）

・特別展「昆虫」 期間：7 月 13 日～9 月 29 日 入場者数：156,415 人

特別展「昆虫」

■収集・保管・修理

大阪市立自然史博物館では、「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理を行っています。

（令和元年度：主な寄贈コレクション）

・大平仁夫コレクション（昆虫）	45,000 点
・上田俊穂コレクション（菌類）	1,050 点
・児玉勤蘚類コレクション（蘚類）	1,200 点

■教育普及

活動成果の公開と普及のため、自然観察会など多様な野外行事・講演会などを行っております。

（110 回実施、計 31,867 人参加）※新型コロナウイルス感染症拡大防止などのため 12 回中止

（１）講座・講演会・シンポジウムなど

・各種の自然観察会など多種多様な野外行事・講演会

・学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」の開催

・外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などの誘致・開催

（２）子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施

・常設展でのワークシートの作成

・学校団体の遠足下見、説明会、相談対応

・職場体験の実施

（３）教員に対する研修会

・「教員のための博物館の日」の開催

（４）学生への支援

・博物館実習を通じての学生への支援

・大学への講師派遣

・自然科学に興味を持つ中高生への直接的な指導

■調査研究

大阪の周辺の自然についての調査や、自然のしくみ・おいたちについての基礎的な研究をしています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補補助金を活用しています。

令和元年度の研究テーマを一部紹介いたします。

・沿岸性行類の遺伝的集団構造とその短期的変動に生息環境が及ぼす影響

・クモヒメバチによるクモ利用の獲得とその進化

・占領統治期の沖縄で採集された生物標本 －その探索と活用に向けた研究

沿革

昭和24年（1949） 自然科学博物館開設準備委員会設置昭和25年（1950） 市立美術館二階廊下において展示開設昭和27年（1952） 博物館法第10条により登録（第2号）

昭和32年（1957） 市立美術館より西区靭2丁目（元靭小学校校舎改造）に移転

昭和33年（1958） 開館

昭和42年（1967） 大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定

昭和48年（1973） 3月 自然史博物館建設工事竣工

4月 自然科学博物館閉館

昭和49年（1974） 4月26日 自然史博物館開館式挙行

4月27日 開館

昭和61年（1986） 展示更新完成

平成13年（2001） 花と緑と自然の情報センター開館

平成18年（2006） ナウマンホールリニューアル

平成19年-20年（2007-2008） 第5展示室オープン（第一期オープンは平成19年3月24日、第二期は平成20年4月26日）

施設概要

規模・構造	地上３階、地下１階	
延床面積	7,066.01㎡	
展示面積	2,427.48㎡	
収蔵面積	1,971.50㎡	
展示室構成	ナウマンホール	550.35㎡
	第1展示室 身近な自然	360.55㎡
	第2展示室 地球と生命の歴史	486.64㎡
	第3展示室 生命の進化	403.10㎡
	第４展示室 自然のめぐみ	通廊展示
	第5展示室 生き物のくらし	360.55㎡
	2階ギャラリー	266.29㎡
収蔵庫構成	地下１階	
	準備室兼置場（１）	47.99㎡
	準備室置場（２）	68.34㎡
	冷蔵庫室	21.99㎡
	資料前処理室	20.14㎡
	一般収蔵庫	748.34㎡
	特別収蔵庫	688.22㎡
	液浸収蔵庫	323.48㎡
	前室（１）	36.80㎡
	前室（２）	16.20㎡
活動用諸室	講堂・集会室・研究室・実験室・実習室	
その他諸室	書庫・事務室・会議室（１階）	

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園。大阪市立東洋陶磁美術館は、その緑に溶け込むように建っています。

この美術館は、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ 21 社から寄贈されたことを記念して大阪市が設立したもので、昭和 57 年（1982）11 月に開館しました。館蔵品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、「李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクション」の韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈や、日本陶磁の収集などにより、東洋陶磁のコレクションとして世界第一級の質と量を誇っています。このなかには、2 件の国宝と 13 件の重要文化財が含まれています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館蔵品の充実が進んでいます。展示では、代表的な作品約 300 件によって中国、韓国、日本の陶磁などを独自の構成と方法により系統的に紹介しています。年 1～2 回の企画展、特別展では専門的なテーマのもとに、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示をめざしています。

作品の魅力をこころゆくまで鑑賞していただけるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台など展示設備にもさまざまな工夫をこらしています。当館は東洋陶磁を中心とした質の高いコレクションを通して、美的体験の場を提供し、豊かな感性の育成と教養の向上に貢献していきます。

■展示・公開

● コレクション展

コレクション展では、安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示しています。特に、安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心にそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示しています。

また、変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示も開催しています。（令和元年度場館者数：105,375 人）

（令和元年度：特集展示）

・「朝鮮時代の水滴」4 月 6 日～6 月 30 日

・「受贈記念 辻井コレクション 灯火具―ゆらめくあかり」10 月 26 日～12 月 8 日

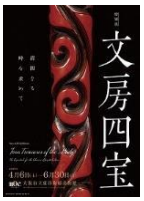
・「受贈記念 木村盛康―天目のきらめき」12 月 21 日～令和 2 年 4 月 12 日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日から臨時休館により公開中止

●特別展・企画展

国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催しています。

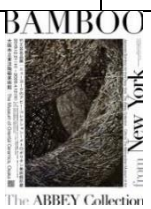
期間	展示名称	入場者数
4月6日～6月30日	文房四宝－清閑なる時を求めて	24,307人
7月13日～10月14日	フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピア－コレクション・カッコネン 同時開催 マリメッコ・スピリッツ フィンランド・ミーツ・ジャパン	57,610人
12月21日～令和2年4月12日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日から臨時休館により公開中止	竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション－メトロポリタン美術館所蔵	15,655人



文房四宝－清閑なる時を求めて

フィンランド陶芸

芸術家たちのユートピアーコレクション・カッコネン



竹工芸名品展

ニューヨークのアビー・コレクションーメトロポリタン美術館所蔵

■収集・保管・修理

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指すため、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行っております。また、作品の保存・継承と、展示などによる効果的な活用を高めるため、状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行っております。

（令和元年度：寄託作品数 15 件 15 点）

■教育普及

来館者に豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たすため、展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催しています。また、博物館学を開講する大学への見学実習の受入れや、館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援しています。

■調査研究

国内外の関連研究機関との学術交流、海外への作品貸出を行うとともに調査研究活動を一層充実させ、世界における東洋陶磁の研究拠点としての役割を担っています。また、研究成果を展示や展覧会図録に反映させています。これらの研究には科学研究費補助金なども活用しています。令和元年度の研究テーマを一部紹介いたします。

・韓国陶磁史の誕生と古陶磁ブーム
・近世における漆継ぎに関する基礎的研究－日本の陶磁器受容の独自性を視座として－
・近代陶芸家の創作思想の系譜：河合寛次郎と八木一夫を中心に

沿革

昭和55年（1980） 住友グループ21社から安宅コレクション寄贈の申し出を受ける
大阪市は中之島公園内に専門美術館を建設することを発表
昭和57年（1982） 11月6日 大阪市立東洋陶磁美術館開館式
昭和58年（1983） 「昭和５７年照明普及賞」を受賞
昭和59年（1984） 「建築業協会賞」を受賞
平成8年（1996） 第1次李秉昌コレクション韓国陶磁121件の寄贈
平成10年（1998） 第2次李秉昌コレクション韓国陶磁100件の寄贈
第3次李秉昌コレクション韓国・中国陶磁130件の寄贈
平成11年（1999） 新館開館式典
「韓国陶磁研究奨学生」の募集開始(以後2007年まで毎年度募集)
平成12年（2000） 李秉昌記念陶磁資料室公開
第1次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか204件の寄贈
平成13年（2001） 第2次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか38件の寄贈
第3次堀尾幹雄コレクション中国陶磁ほか23件の寄贈
平成17年（2005） 第4次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか11件の寄贈
平成20年（2008） 沖正一郎コレクション鼻煙壺1139件の寄贈
沖正一郎鼻煙壺展示コーナー新設・公開
平成30年（2018） 第1次松惠コレクション日本陶磁ほか240件の寄贈
平成31年（2019） 第2次松惠コレクション日本陶磁ほか147件の寄贈
辻井コレクション灯火具84件の寄贈

施設概要

規模・構造	地上３階、地下１階	
延床面積	3,921.80㎡	
展示面積	1032.0㎡	
収蔵面積	121.8㎡	
展示室構成	Ａ韓国陶磁室口	126.0㎡
	Ｂ韓国陶磁室	70.0㎡
	Ｃ韓国陶磁室口	92.3㎡
	Ｄ李秉昌コレクション韓国陶磁室	193.5㎡
	Ｅ日本陶磁室	102.6㎡
	Ｆ特集展示室口	61.2㎡
	Ｇ中国陶磁室	100.0㎡
	Ｈ中国陶磁室（自然採光室）	47.0㎡
	Ｉ中国陶磁室口	110.0㎡
	Ｊ企画展示室口110.2㎡	110.2㎡
	Ｋ沖正一郎コレクション鼻煙壺室	19.2㎡
収蔵庫構成	１階収蔵庫	121.8㎡
活動用諸室	研究室・図書室	
その他諸室	事務室・学芸室・会議室	

大阪市立科学館

大阪市立科学館ではプラネタリウム、展示場、サイエンスショーなど「本物、実物、生の現象」で多くの方々に科学をお楽しみいただいています。設立時を上回る勢いですが、さらに、当館での体験が家庭、学校、職場などを通して社会全体に広く伝播し、科学を楽しむ文化が振興することを目指しています。そして、この文化が科学技術発展の礎になることを願っています。「本物、実物、生の現象」による強い感動があれば実現できるはずと職員一同が切磋琢磨しています。

大阪市立科学館の「本物、実物、生の現象」を具にした科学料理を、どうぞ味わいください。

■展示・公開

● 常設展示

常設展示では、「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、１階から４階の各フロアで物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料を模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行っています。

（令和元年度実績）

・常設展示：入場者数 405,825 人

・サイエンスショー：演示回数 997 回 見学者数 69,246 人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日から臨時休館により公開中止

● プラネタリウム

大阪市立科学館では、新しいプログラムを 3 か月に 1 本制作・投影しています。また他館に配給する特別プログラムを年間 2本制作しています。 幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう、一般投影以外にも、ファミリータイム・学習投影など多種多様なプログラムを提供しております。

（令和元年度 プラネタリウム入場者数：351,932 人） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日から臨時休館により公開中止

演示名称	内容
一般投影Ａ	「今夜の星空」の解説に加え、下記のテーマ解説を行っています。学芸スタッフ等による生解説が基本となっています。 ・投影回数 695回 ・観覧者数 115,260人 ・タイトル 星の光景ベスト10、木星と土星の世界、星空歴史秘話、夜空の宝石箱「すばる」、銀河うずうず
一般投影Ｂ	全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による生解説を加えて投影するスタイルで行っています。 いずれも当館オリジナル作品となっています。 ・投影回数 572回 ・観覧者数 110,295人 ・内容　宇宙ヒストリア～138億年、原子の旅～（新作）、星の降る夜に（新作）、天の川をさぐる、オーロラ、HAYABUSA２～REBORN（新作）
学芸員スペシャル	学芸員の専門・得意分野を生かした投影となっています。 ・投影回数 80回 ・観覧者数 12,537人
学習投影	平日の学校団体専用の学習用プログラムの投影を行っています。 ・見学校 554校 ・投影回数 206回 ・観覧者数 42,437人
ファミリータイム	幼児から小学校低学年までの子供連れの家族（園団体を含む）向けの投影を行っています。 ・投影回数 415回 ・観覧者数 70,843人
スペシャルナイト	天文学の普及と市民の生涯学習を目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を行っています。 ・ブラックホール…見えた?! 7月27日 参加費1,000 円 286人参加 ・はやぶさ２トークライブ 9月28日 参加費1,000 円 268人参加 ・満天のオーロラ～星の輝く夜に～ 10月27日 参加費1,500 円 264人参加 ・巨大加速器LHCで探る宇宙- Phantom of the Universe － 11月24日 参加費600 円 142人参加

■収集・保管

物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っています。また、大学などとの連携を通じて観測器類・実験装置などの収集も行っています。

特に、令和元年度におきましては、理化学研究所よりスーパーコンピューター「京」の一部の寄贈を受けました。

（令和元年度実績：資料寄贈 62 件 購入・制作 0 件 借用 6 件）

■教育普及

「本物、実物、生の現象」による体験、そして感動をより多くの方に届けるために様々な教育普及活動に力を入れています。

(1) 講座・講演会・シンポジウムの開催

・学芸員による実験教室や研修・講座

・外部組織との連携

・ボランティアによる展示ガイド・エキストラ実験ショーの実施

(2) 子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施

・展示場ワークシート・学校団体専用の学習用プラネタリウムの投影

・「ジュニア科学クラブ」の実施

(3) 大阪府・市教育センターなどとの連携

・教員向けの研修「教員のための博物館の日」の開催

(4) 学生への支援

・天文学を学べる大学との連携

・小学校向けの出張サイエンスショーの実施（10 校 10 件）

■調査研究

当館の運営テーマである「宇宙とエネルギー」を中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究」を行っており、その研究成果を科学に関する資料の収集・保管・展示に反映させています。

沿革

昭和61年(1986) 関西電力（株）から大阪市制100周年に賛同し、関西の電気事業創業100年を記念して「科学技術館（仮称）」を建築して寄贈する旨申し出
平成元年(1989) 5月31日（大阪市立電気科学館 閉館）
10月7日 開館
平成２年(1990) のべ 100万人来館
平成５年(1993) 第1次展示改装（第1期）オープン
12月25日 のべ 300万人来館
平成６年(1994) 第1次展示改装（第2期）オープン
第1次展示改装（第3期）オープン
平成９年(1997) のべ 500万人来館
平成11年(1999) 第 2次展示改装オープン
平成16年(2004) プラネタリウム機器リニューアルオープン
平成18年(2007) のべ 1000万人来館
平成20年(2008) 第 3次展示改装オープン
平成21年(2009) オリジナル全天周映像「HAYABUSA-BACK TO THE EARTH-」完成・上映開始
開館20周年記念式典
平成23年(2011) プラネタリウムホールプロジェクタリニューアルオープン
平成25年(2013) 入館者1500万人達成
平成31年(2019) 光学プラネタリウム更新、展示場一部改装し、リニューアルオープン

施設概要

規模・構造	地上４階塔屋、地下１階建て	
延床面積	9,356.45㎡	
展示面積	3,156.3㎡	
収蔵面積	95.7㎡	
展示室構成	プラネタリウムホール	480.0㎡
	１階展示場	344.0㎡
	２階展示場	421.9㎡
	３階展示場	996.0㎡
	４階展示場	1394.4㎡
	天体観測室	25.8㎡
活動用諸室	研修室・工作室・多目的室	
その他諸室	事務管理室・会議室	

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、大阪に住む人たちをはじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した活動を行っていきます。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざしていきます。

■展示・公開

● 常設展示

常設展示では、古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示しています。また、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催しています。

（令和元年度実績）

・常設展示：入場者数 239,558 人

（特集展示一覧）

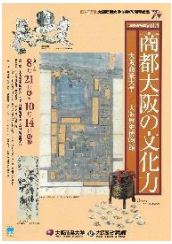
・（平成 31 年 3 月 20 日）～5 月 6 日　なにわ人物誌　三好木屑
・5 月 8 日～7 月 8 日　新収品お披露目展
・7 月 10 日～8 月 19 日　漣を生んだ風景－近代水都大阪を描く―
・8 月 21 日～10 月 14 日 博学連携展 vol. 1 商都大阪の文化力
・10 月 16 日～令和 2 年 1 月 6 日　新発見！なにわの考古学 2019
・1 月 8 日～ 3 月 2 日　押絵「西国三十三所観音霊験記」と生人形

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 29 日から臨時休館により公開中止

なにわ人物誌　三好木屑

新収品お披露目展

漣を生んだ風景
－近代水都大阪を描く―



博学連携展 vol. 1
商都大阪の文化力

● 特別展

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催しています。

（特別展一覧）

期間	展覧会名	入場者数
7月27日～9月8日	～国芳、広重、国貞、豊国、英泉…江戸・明治の浮世絵師たちが描く～ ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展	30,012人
10月5日～12月1日	勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門	27,058人
令和２年2月26日～４月５日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日から臨時休館により公開中止	猿描き狙仙三兄弟 鶏の若沖、カエルの奉時も	473人

浮世絵ねこの世界展

決定版・刀装具鑑賞入門

■収集・保管

郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民のみなさまに紹介し、理解を深めることを方針とし、この趣旨に沿って歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。

（寄贈 274 点、寄託 13 件 53 点）

■教育普及

「都市おおさか」の歴史と文化を市民のみなさまに紹介するため、様々な事業を行っています。

（1）講座・講演会・シンポジウム・見学会の開催

・なにわ歴博講座

・考古学入門講座「なにわ考古学散歩」の実施

・漢文講座

・展覧会と関連した講演会・シンポジウム・展示解説

（２）子ども向けワークシートの作成・ワークショップの実施

・スタンプラリーの実施、８階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布

・難波宮遺跡探訪

・わくわく子ども教室事業の実施

（３）学校との連携

・教員向けの利用講座（教員研修）

• 「教員のための博物館の日」の実施

・学芸員資格の取得を目指す実習生の受入れ

・職場訪問、職業体験の受入、職業講話の講師派遣

（４）学生への支援

・学芸員資格をめざす実習生の受入れ

・大学への出講

■調査研究

当館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」を実現するため、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について調査研究を実施しています。また、これらの研究には科学研究費助成事業等も活用しています。令和元年度の研究テーマの一部を紹介いたします。

・先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明

・藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究

・近世中後期における油・種物の流通構造

沿革

大阪市立博物館（前身）

昭和４～6年（1929-1931）　大阪城天守閣とともに、第四師団司令部建設のため市民の募金、6年に竣工。後に中部軍司令部、終戦後は駐留軍施設として利用

昭和23年（1948）　旧第四師団司令部を大阪市警本部として返還

昭和33年（1958）　府警から市へ建物返還。市制70周年記念事業として旧第四師団司令部の歴史博物館への転用構想まとまる

昭和35年（1960）　5月 博物館創設事務室設置。館蔵品ゼロからのスタート
12月 第1期工事完了、１階開館。第１回特別展「桃山文化展」開催

昭和37年（1962）　第 2期工事完了、全館開館。記念特別展「大阪の名宝」開催

昭和51年（1976）　文部省の科学研究費を申請できる学術研究機関の指定を受ける平

成元年（1989）　有料入館者320万人突破

平成12年（2000）　最後の展覧会「開館40周年記念特別展 博物館ものがたり―市民と歩んだ40年・そして未来へ―」開催

平成13年（2001）　閉 館

大阪歴史博物館

昭和60年(1985)　大阪市が「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」を発表

昭和62年(1987)　４月 NHKと大阪市が大阪放送会館の旧大阪市中央体育館北側敷地への移転合意。
７月 発掘調査開始（平成2年まで）し、5世紀代と前期難波宮にかかる倉庫群を発見

平成3年(1991)　遺構群を保存する方針を決定し、大阪市考古資料センター（仮称）の設置を決定

平成6年(1994)　旧大阪市立中央体育館跡地での考古資料センターと新博物館の建設を発表

平成9年(1997)　「（仮称）NHK大阪新放送会館および大阪市立新博物館・考古資料センター」の建設工事が着工

平成13年(2001)　4月 大阪歴史博物館条例公布、建物竣工
11月3日 大阪歴史博物館開館

施設概要

規模	地上13階・地下3階建て	
延床面積	23,606.54㎡（専有部） 18,989.08㎡（共有部）	
展示面積	4,118.04㎡（常設展示） 892.64㎡（特別展示）	
収蔵面積	2,188.11㎡	
展示室構成	10階 難波宮の時代	1,219.37㎡
	9階 大坂本願寺の時代 天下の台所の時代	1,161.34㎡
	8階 特集展示	196.99㎡
	歴史を掘る、など	486.24㎡
	7階 大大阪の時代	1,054.10㎡
	6階 特別展示室	892.64㎡
	地下1階 保存遺構見学室	1,890.00㎡
収蔵庫構成	第１収蔵庫	456.52㎡
	第２収蔵庫	70.70㎡
	写真保管庫	61.77㎡
	第３収蔵庫	109.91㎡
	第４収蔵庫	160.85㎡
	第５収蔵庫	71.35㎡
	第６収蔵庫	543.90㎡
	第７収蔵庫	109.88㎡
	第８収蔵庫	603.23㎡
その他収蔵・保存設備	写真保管庫 燻蒸庫 書庫 X線透過撮影装置ほか	
活動用諸室	研究室・講堂・学習情報センター『なにわ歴史塾』	
その他諸室	研修室・会議室、事務室	

大阪中之島美術館準備室

大阪の中心部中之島に、令和３年度の開館を予定している新しい美術館です。大阪ゆかりの作家も含め、日本や世界の近代・現代美術および近代デザインの作品をすでに約 5,700 点収蔵しています。

■開館に向けて

大阪市北区中之島に新たに設置する大阪中之島美術館について、令和 3 年度中の開館をめざして整備に取り組んでいます。

新美術館については、平成 26 年（2014）9 月策定の「新美術館整備方針」において、民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムというコンセプトを掲げるとともに、平成 28 年（2016）11 月に策定した「大阪都市魅力創造戦略 2020」において、大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信のための重点取組に位置付けるなど、これまでにない新たな魅力を持った施設をめざしています。 新美術館の運営は、作品の収集、保存、研究、展示、教育普及、関連行事開催、大学・企業・地域等との連携、貸室、カフェ・レストラン等の運営など多岐にわたります。本事業は、これら新美術館の特徴を踏まえ、 PFI 方式により、民間事業者が各業務を取りまとめ、効率的な美術館の維持管理・運営を行うものです。

■開館準備業務の実施

(1) 運営を担う PFI 事業者の公募及び選定

募集手続きにおいて、株式会社朝日ビルディングが優先交渉権者に選定されました。

(2) 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集

購入：14 件 寄贈等：12 件 寄託：1 件

(3) 作品保護と会館この展示の必要性を考慮しての修復と額装

修復：油彩画 16 点、家具作品 2 点

額縁：製作 35 点、修繕 4 点

保存処置：貴重資料 300 点

(4) 選定されたデザイナーと共同でのヴィジュアル・アイデンティティ（VI）の構築

ロゴタイプ、シンボルマークなどをはじめとした基本 VI エレメンツを制作しました。

(5) プレオープンイベントの実施

「サラ・モリス サクラ」展（9/21～10/6）

サラ・モリス サクラ展

V 資料

■決算報告書（平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額（決算－予算）	備考
収入				
運営交付金収入	1,979	2,016	37	
施設整備費補助金収入	168	146	▲ 22	
自己収入	796	773	▲ 23	
事業収入	761	752	▲ 9	
その他収入	35	21	▲ 14	
寄付金収益	0	2,342	2,342	
補助金収益	0	1	1	
計	2,943	5,278	2,335	
支出			0	
業務費	1,847	1,776	▲ 71	
展覧会経費	487	484	▲ 3	
その他業務経費	185	196	11	
人件費	1,175	1,096	▲ 79	
施設整備費	222	184	▲ 38	
一般管理費	874	830	▲ 44	
計	2,943	2,790	▲ 153	

Ⅵ 大阪市博物館機構からのお知らせ

寄　附

ご寄附のお願い

大阪市博物館機構では、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館（令和４年 2 月 2 日開館予定）を運営し、歴史・美術から自然・科学に至るまで多様な分野において、 それぞれの専門性を活かしながら、 展示や調査研究など、博物館活動の充実に努めております。

市民の皆さまをはじめ、より多くのお客様にお越しいただける魅力あるミュージアムづくりのために皆さまのご支援をお願いいたします。大阪市博物館機構へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄附金として税制上の優遇措置の対象となります。

▶所得税の優遇措置

「寄附金額」または「総所得金額等の 40%相当額」のいずれか低い金額から 2,000 円を除いた額が所得額から控除されます。

▶個人市民税の優遇措置

・大阪市に在住の方の寄附金税額控除

市民税の基本控除額 （寄附金額 ※注 1－2,000 円）×８％

※注 1 寄附金額は総所得金額等の 30%が上限となります。

▶個人府民税の優遇措置

・大阪市・堺市に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注 2－2,000 円）×２％

・大阪府（大阪市・堺市を除く）に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注 2－2,000 円）×４％

※注 2 寄附金額は総所得金額等の 30%が上限となります。

▶法人税

寄附金額と損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

詳しくは、国税庁ホームページの・タックスアンサーNo.5283　特定公益増進法人に対する寄附金をご確認ください。

キャンパスメンバーズ

５ つの博物館・美術館を管理運営する大阪市博物館機構と、大阪城天守閣を管理運営する大阪城パークマネジメント株式会社、大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館を管理運営する大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体は、７つの施設での大学生等による利用促進を図るため、「キャンパスメンバーズ」制度を設けています。

本制度は、大学・短期大学・専修学校・各種学校・高等学校を単位とし、学生・生徒等のみなさまに、博物館施設の常設展を無料で観覧できる等のサービスを提供するもので、活力ある地域社会の創造及び学術文化の向上発展に向けた人材育成に貢献します。

Osaka Metro　　谷町線・中央線「谷町四丁目駅」２号・９号出口
大阪シティバス 「馬場町」バス停前

地方独立行政法人　大阪市博物館機構年報
【2019 年度】
令和 4 年 4 月
編集・発行：地方独立行政法人　©大阪市博物館機構 2022

〒540-0008　大阪市中央区大手前４－１－32　大阪歴史博物館内
電話：06-6940-4330　**https://ocm.osaka**